

教會

1609098
特20
146



國史
纂要
八卷
一

文學士辰巳小次郎編

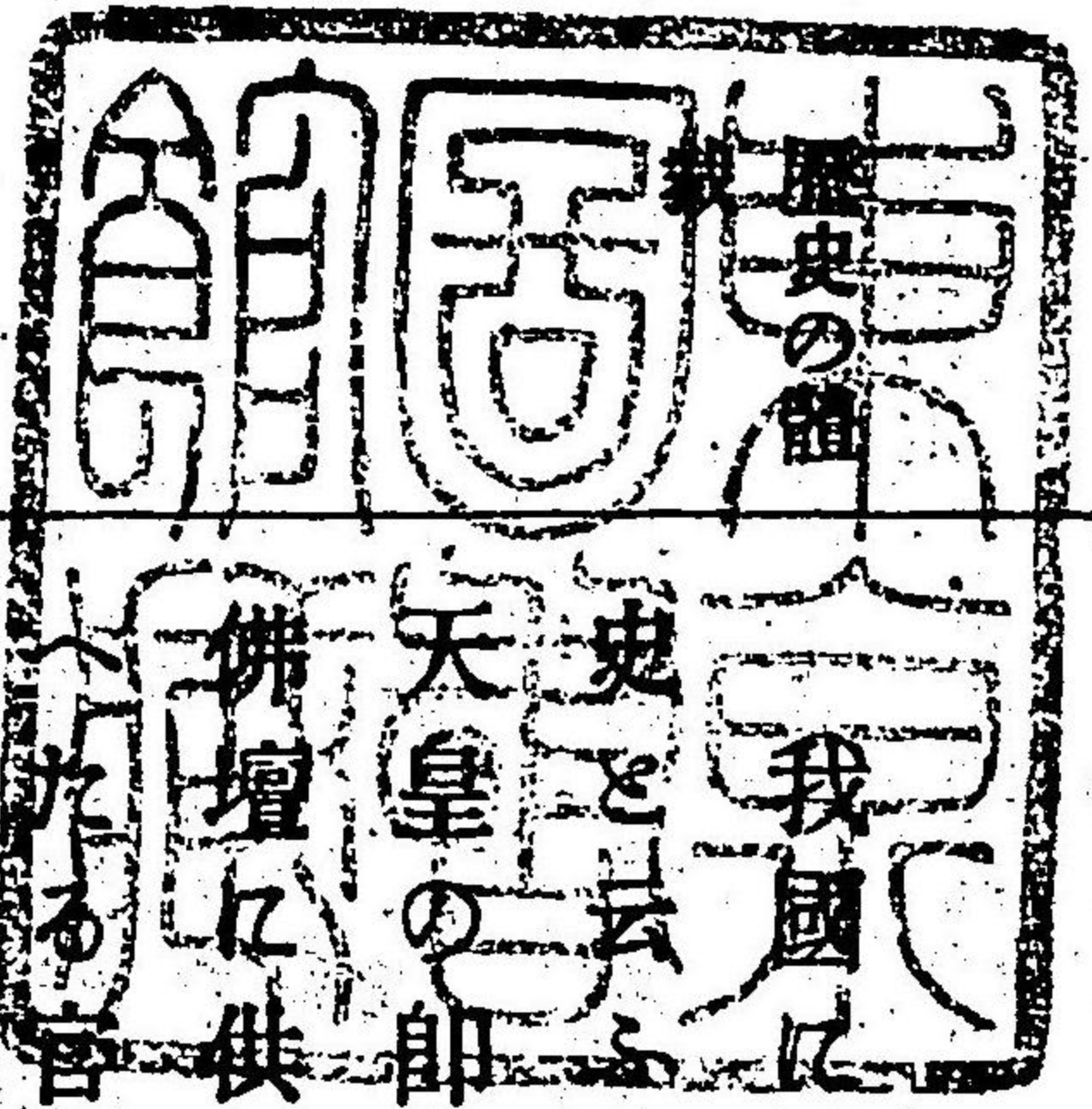


吉岡商店發兌

第二章	正史前の事變	二	八頁
第三章	スバルタ	二	九頁
第四章	雅典	三	二頁
第五章	波斯侵寇	三	五頁
第六章	雅典全盛	四	〇頁
第七章	内亂ペロポネソス戦争	四	二頁
第八章	スバルタの暴逆	四	四頁
第九章	マセドン王國	四	五頁
第十章	希臘開化	四	九頁

萬國小史卷之一

文學士 辰巳小次郎 著



總論

舊來歴史と云ひたるもの數多あれども、眞實の歴史と云ふ可きものなし。夫れ現今小學用の古今紀要は重に天皇の即位崩御公卿の任官敘位等を記し恰も我等が家の佛壇に供へたる官吏任免の請書簿とを合せたる者の如く其内決して史と稱するに足るものなし。

又日本外史を緋ひければ専ら英雄戰伐の事蹟を記るせる而已なるを知るべし。要するに日本にて從來歴史と云ひたる者は皆其紀事重に帝室並に相家將門に限りて人民進歩の

有様並に其原由等に至ては殆んど全く之を論ずる事なし。故に著者をもて此等の書を評せしめば古今紀要の如きは官家の記録、日本外史の如きは戦争の記事と云はんのみ。西洋人は戦争の記事を鼓角の歴史と云ふ。

又支那歴史中錚々たる史記を見るに本紀あり、世家あり、列傳あり、八書あり。八書なる者は少しく當時の文明を示すに似たりと雖下民一般の状態を知る由なし。要するに史記一部は本紀、世家、列傳より成る者なれば歴史と云はんより寧ろ雜傳と云ふ可きなり。

今我等が講究せんとする歴史なるものは國民の次第に開化に赴く景況を記るし又之を論究するを云ふ。凡そ國民(nation)とは人類の一定所に群居して一政體を構ふるものを

國民の定義

云ふ。水草を追ひて移住する者即いはゆる遊牧の民なるものは牛羊の乳肉を飲食の料に供し牛羊の皮毛を被服の料に供す。而して牛羊繁殖し水涸れ草盡くれば他所に轉住して水草を求む。如此人類は一定の居所と真正の政體とを有する事なし。故に如此人類は國民と稱するを得ざるなり。故に國民たる者は既に幾分開化の域に入りたるものと知る可し。

歴史地理の關係

歴史と地理とは互に關係する事莫大にして地理の最も多く人事を影響する所以は次に記るせる箇條なり。

- (一) 土地の肥瘠
- (二) 氣候の寒暖
- (三) 國土の形狀

總論

(四) 國土の位置

(五) 天地の現象

土地の肥瘠

土地の肥瘠。凡そ人民の始めて群居して國を成せしは其土地豐饒なるを要せ。何と云ふに土地豐饒ならざれば人民繁殖せる能はず。又土地豐饒にして衣食を得る事容易ならざれば、人民衣食に奔走して其餘力と工藝學問に用ゐる能はず。工藝學問興らざれば開化成らざるなり。

氣候の寒暖

氣候の寒暖。凡そ寒帶地方に在りては人民の生活に苦む事莫大にして開化進歩する能はず。何と云ふに此地方は植物無く動物稀なり。雪を鑿ちて住家とし氷を立て戸とせ。鯨を捕へ其肉を食ひ其油を燃す。氷雪の住家には薪炭を用ゐて寒氣を凌ぐ可からず。薪炭の火勢熾時に氷雪の住家

を溶解す可ければなり故に寒氣を凌ぐには鯨脂を食して體溫を保つを以て良策とせ。然るに鯨へ小魚に非ず且其數少ければ之を捕ふる事容易に非ず。因て知る可し寒帶地方の人民の生活に苦む事莫大なるを。熱帶地方に在りては焔熱人民をして性質怠惰柔弱にし高等開化の域に進むを得ざらしむ。去れども五穀果物自然に繁茂熟成して人民農事に勞する事なきが故に人民群居して國家を成すに便なり。且又熱帶地方と云へども熱焔に晝間僅に四五時間に限り。其餘の時間には人民能く勞働に堪ふ可ければ其民情世態幾分か進歩せざる可からず。尤も真正の開化の興るは獨り溫帶地方に限り而して此地方中に於ては開化の程度寒國に高く、暖國に低し。是れ寒國の人民天然の貧乏に苦み身自

(四) 國土の位置

(五) 天地の現象

土地の肥瘠

土地の肥瘠。凡そ人民の始めて群居して國を成せしは其土地豊饒なるを要せ。何と云ふに土地豊饒ならざれば人民繁殖せる能はず。又土地豊饒にして衣食を得る事容易ならざれば、人民衣食に奔走して其餘力と工藝學問に用ゐる能はず。工藝學問興らざれば開化成らざるなり。

氣候の寒暖

氣候の寒暖。凡そ寒帶地方に在りては人民の生活に苦む事莫大にして開化進歩する能はず。何と云ふに此地方は植物無く動物稀なり。雪を鑿ちて住家とし氷を立て戸とせ。鯨を捕へ其肉を食ひ、其油を燃す。氷雪の住家には薪炭を用ゐて寒氣を凌ぐ可からず。薪炭の火勢弱時に氷雪の住家

を溶解す可ければなり故に寒氣を凌ぐには鯨脂を食して體溫を保つを以て良策とせ。然るに鯨の小魚に非ず、且其數少ければ、之を捕ふる事容易に非ず。因て知る可し寒帶地方の人民の生活に苦む事莫大なるを。熱帶地方に在りては、焔熱人民をして性質怠惰柔弱にし、高等開化の域に進むを得ざらしむ。去れども五穀果物自然と繁茂熟成して、人民農事に勞する事なきが故に、人民群居して國家を成すに便なり。且又熱帶地方と云へども、熱焔の晝間僅に四五時間に限り、其餘の時間には人民能く勞働に堪ふ可ければ、其民情世態幾分か進歩せざる可からず。尤も眞正の開化の興るは、獨り温帶地方に限り而して、此地方中に於ては開化の程度寒國に高く、暖國に低し。是れ寒國の人民天然の貧乏に苦み身自

から勞作する事多く、暖國の人民天然の富裕に甘じ身自から勞作する事少きが故なり。

國土の形狀

地球上に國土多しと雖其形狀各異なり亞非理伽のサハラの如きは眞の平地にして凸凹なし。印土の如きは北に高嶽あり南は大洋ありて恰も箕の形をなす法蘭西西班牙の如く方形なる者あり伊太利の如く長靴の形をなす者あり。凡そ國に山嶽の多き時は雨露降る事多くして地味之れが爲め肥ゆる事多し。又一國內は山川海灣多く土地分裂して割據に便なる時は一國內に數種の風俗習慣生じ獨立自由の氣象興る事早し。之に反し國內に山川海灣少くして統一に便なる時は一大政府興り國民を壓制する事常なり。

國土の位置

國土の位置。凡そ陸内の國民は海を見ざるが故に大船を造り航海を試みる念興らず。海濱の國民は其の見る所一として茫々たる海水ならざるは無きが故に早く航海の念を懷く。抑も航海は商工進歩の一原因にして商工進歩は民權早興の一原因なり。故に海濱の國民は商工に従事して自由權理と有するなり。之に反し陸内の國民は戰爭攻伐を以て富國の良計とするが故に戰爭攻伐して止む事を知らず。戰爭攻伐して止む事を知らざるが故に將軍即國主の權増々大にして戰士即國民の權増々小なり。

天地の現象

天地の現象。凡そ雷鳴、暴風、地震、熾火、疫病、猛獸、毒蛇等多き土地には人民常に危懼の心を懷き、猥りに鬼神怪物を信ぜるなり。如此者少き土地には人民氣象堅固にして物理を

本書所載
の人種

研究するを得るなり。

凡そ世界の人種は白、黄、赤、黒、褐の五色に區別す可けれど、も其中獨り白、黄二色の人種の事蹟のみ本書には載するなり。白色人種に三派ありてエリヤン派、セミチック派、ハミチック派と云ふ。此三派に屬する國民次表の如し。

- (一) 古代の印土人
- (二) 古代の波斯人
- (一) エリヤン派
 - (三) 希臘人
 - (四) 羅馬人
 - (五) 今代の歐米人
- (一) 猶太人
- (二) フニシア人

エムニツク

- (二) セミチック派
 - (三) アッシリア人
 - (四) 亞刺比亞人
- (三) ハミチック派
 - (一) イジプト人
 - (二) カルチア人

凡そエリヤン派の國民は進取の氣象に富み學藝を研究し開化の高度に達したり。セミチック派の國民は守舊の氣象多く學藝を進めたる事少く、單に一神教を説き出したる功業あり。猶太教、耶蘇教、回々教皆此派に出たり。今代の歐米人は希臘羅馬の文物制度と耶蘇の教法とに由りて開化を成せるなり。ハミチック派に屬せし國民は幾分か開化をなし、も之を以て他派の國民を影響せし事甚た少し。要するに白色人種の歴史はエリヤン派の歴史と云ふ可し。

黄色人種の歴史は日本支那朝鮮三國の事蹟より成れる者と知る可し。

第一篇 太古の部

第一章 埃及國

埃及の國事

埃及は古き國の一なり。國の古き事を以て之と伯仲するものは他に無きに非ず。と雖國史の古きを以て埃及の上に出る國無し。

埃及は亞弗利加に在り。ナイル河畔に國を。ナイル河は歲毎に水溢る。水溢れて地層改まる。故に地甚だ肥へ耕作に勞むる事甚だ少し。之に加ふるに氣候甚だ暖なり。童兒の成長するに必用の入費は僅に米銀四弗を要とぞ。

埃及獨立の時代は耶蘇紀元前二千七百年に起り同五百廿五年に至る之を別ちて三時代とす。

埃及の古き事

埃及の豊饒

時代の區別

古帝國

一 古帝國の時代

(耶蘇紀元前 二千七百年に起り 二千八十年に終る)

二 牧王の時代

(同 二千八十年に起り 千五百二十七年に終る)

三 新帝國の時代

(同 千五百二十七年に起り 五百廿五年に終る)

古帝國の太祖は Menes と云へり。二十五世紀の中頃ピラミッドの建立あり。此建立にても此時代に埃及人の工事に巧なりしを知る可し。此時代より帝都は Memphis に在り。此時代の末に至り國內分裂して四五ヶ國となる。Thebes に都するもの最も強し。

牧王

牧王ハ元來アラビヤ地方の羊牧者なり。埃及の國內分裂したるに乗じ侵し來りて之を取る。牧王の世には埃及の技藝其迹を絶てり。

新帝國

新帝國は Thebes 國王の後裔牧王を追ひ以て建てし所な

埃及の滅

り千五百二十七年より千二百年に至る三百年間は埃及全盛の時なり。時に技藝進み武威耀けり。亞細亞地方多く埃及の領となる。武功著大の王を Ramses 二世と云ふ。埃及は耶蘇紀元前五百二十五年に波斯の領となり。同三百十二年に希臘人の領となり。同三十年に羅馬人の領分となる。

埃及の文明

政体は世襲王政なり。尤も僧侶權勢大にして王の行爲を制する事少うらむ。

Caste system

則族制と云ふ事あり。民を三分して僧侶、武士、庶人とす。僧侶最も威權あり。最も資産に富み、學識を專有せり。武士は僧侶に次ぎて貴し。僧侶武士の田地は地租を出し

族制

政体

埃及國

建築

に及ばず。庶人とは農工商牧を云ふ。皆財産の權と政治の權とを有せず。此制度ハ門閥を貴みて人才を擧げず。其弊人智萎凋し文明中止を至るに至れり。

埃及工藝の内於て最も要用なるは建築なり。建築の性質中尤も著しきは構造の宏大なる事なり。ピラミットを以て之を證すべし。ピラミットの最大なるは高さ四百五十ピート底面四方各七百六十ピートなりと云ふ。

彫刻繪畫

彫刻繪畫は大ニ進む事を得ず。僧侶條令を下して彫刻師繪畫師をして其意に任かせ其業を營むを得ざらしめしが故なり。

宗教

有識の者は一神の見る可かりざるものを信すれども凡俗は皆惑溺して畜類を拜禮せり。人死する時藥種を以て體

學問

の腐敗を止め、永く之を保全する習慣あり。埃及人の修めし學問は算術、天文、醫學、幾何學なり。

第二章 前後バビロニア王國

並にアッシリア帝國

前バビロニア

前バビロニア王國

此國の正史の始は二十三世紀頃なるべし。此國の勢力は十三世紀に至つて衰へり。此國の人は日月星辰を以て神とせり。之に加ふるに土地平坦なるが故に天文学早く進めり。此國の人は天性建築に巧みなり。楕形の文字を用おたり。

アッシリア帝國

アッシリ

此國紀元前千二百五十年に獨立し、凡ろ六百年間諸國に霸たり。センナチリツブ帝の世ハアッシリア技藝の黄金時

前後バビロニア王國等

第一篇

太古の部

代なり。嘗て此國の屬國となりしは亞細亞の大半及び埃及是なり。紀元前六百二十五年此國亡ぶ。此國の都は「ニ子ベ」と云ふ。此國の人民は技藝及び製造に長ぜり。建築及び彫刻其最も誇る所なり。

後バビロニア王國

後バビロニア王國

此國の建國初年ハ紀元前六百廿五年なり。初代の王を「ナボポラッサー」二代の王を「ネブカト子ザ」云ふ。二代の王は武功甚だ大なる而已ならず且又バビロン府を再建せり。と以て名あり。バビロン府は方形にして廣さ英都「ロンドン」に五倍す。ユーフレイチエ河斜めに府内に流る。耶蘇紀元前五百三十八年ペルシヤの王サイラス此國を亡す。此國民は學問才智を以て古代に名を轟かし又商業製造に從事せり。

猶太國の興亡

第三章 猶太國

紀元前二十世紀に猶太人の先祖其居所「カルヂヤ」を發して西に往く。國王の爲に虐遇せられたる事久し。遂に「モセス」なる者其衆を率ゐて埃及より走り「パレスタイン」に往き國を立つ。時に紀元前千三百廿年なり。是より後始めて猶太人居を定め國を爲す事を得たり。天帝を以て國主とし祭官を以て執政と爲せり。千〇九十五年神政を廢し王政を立つ。初代の王を「ソール」二代の王を「デビッド」三代の王を「ソロモン」と云ふ。「ソロモン」の時猶太國全盛を極め、近國に霸たり。「ソロモン」死して屬國離畔し國民互に黨を爲し國分れて二小國と

なる。イスラエル王國猶太王國是なり。七百廿一年、イスラエル王國は、五百八十六年猶太王國に併ぶ。

猶太人の
流離

猶太王國を亡ぼししは、バビロニア國王、ネブカドネザールなり。此人猶太人を捕へて、バビロンに送る。五百三十六年、バビロンに併ぶ猶太の人復國に歸る。是より後猶太は相繼て波斯、希臘、羅馬に屬せり。猶太の羅馬に從ひしは、紀元前六十二年なりしが、國民頑固にして能く命を背く。紀元後七十年國都毀たれ、人民逐はる。是より猶太人四方に流離し、永く世界の浪人と爲れり。

猶太人の
宗教

猶太人の世界の文明を影響せし所以は、獨り宗教の上にあるのみ。其宗教は一神を説く耶蘇教、回々教、由て出づる所なり。其教舊約全書に詳なり。

第四章 フニシア國

フニシ
アの地理

フニシアハ國小にして土地瘦たり。南猶太に隣し、西地中海に濱し、東レバノン山を背にす。レバノン山を経て亞細亞中部の沃野に至るべし。地中海波靜かにして渡り易し。レバノン山材木に富み舟を作るに便なり。故に亞細亞の産物を地中海紅海に浮べ之を亞非利加歐羅巴に致すべし。又地中海の諸岸並に其島嶼に植民地を置き以て商業を敏活ならしむ可し。故にフニシア人は三大洲の商利を壟斷し、富裕天下を冠たり。

政體

フニシアハ數個の都邑より成る國にして、都邑各王を立て政府を異にす。事有る時に限り都邑相合ひて同盟し、其一を推して長とす。都邑中最も有名なる者二あり、サイドンタ

事業

イヤ是なり
 フニシア人ハアルハベットの發明者あり。アルハベットの今の羅馬字の本原なり。又此人民は東西の諸國に媒介して貨物を運輸せり。而して貨物を運輸する際自ら東西に知識を交換せり。故に開化の新造者に非ずと雖ども開化の擴張傳播者なり。此國衰へし後他國に従ふ事左の如し

- 耶蘇紀元前九世紀 アッシリア
- 同 七世紀 バビロン
- 同 六世紀 ペルシア
- 同 四世紀 希臘
- 同 六十三年 羅馬
- 第五章 印度國

建國

凡そ紀元前三千年エリヤン人種の一部印度の地に入る。印度文明は此の人種の作りたる所として印度自生の黒奴の作りたる所に非ざるなり。歐洲人にして始めて此國を知りしは歴山大王なり。時よ紀元前三百二十六年なり。

族制

印度よ族制あり。民を四等に分つ。一に波羅門、二に釋帝羅、三に吠奢、四に戎陀なり。第一ハ宗教と學問とを業とし、第二は戦争と政事とを業とし、第三は農業及び商業を業とし、第四は工を業とせり。

文化並ニ
宗教

印度の語はサンスクリットにして今の歐米言語と語原を同一にせり。印度の文字はいはゆる梵字なり。印度の古書中最も古きは韋陀經にして即ち波羅門教の經典なり。此經典は天地萬物を以て神靈なりと説けり。印度に魂魄の流轉

印度國

と云ふ事あり。凡そ人其生涯に善行有れば死して後其魂魄
 天人の體に宿り、若し惡行有れば死して後其魂魄禽獸の體
 に宿る等を云ふ。波羅門教の僧侶專横を極め人民を虐遇せ
 し故に釋迦大に怒り宗教並に社會の改良を謀れり。釋迦の
 見に據れば王公相將異なる種なく萬民共に明德を備ふる
 者なり。故に佛教は民權教なり社會論なり。然るに波羅門強
 くして佛教を印度より追へり。

日本近時の状態を見るに佛教耶蘇教の争近き有んと
 す。日本の人民文物制度は之を「アリヤン」人種に眞似んとす。
 宗教は之と「セシチック」人種に眞似んとす。抑も佛教は「ア
 リヤン」人種の想像より出て耶蘇教は「セシチック」人種の想像
 に出たり。史を讀む者此邊の意を注ぐ可きなり。

この教の事アリヤン人種に眞似んとす。

第六章 波斯國

事變

波斯の天下を統一せしはサイラス大王の力に依る。五百
 五十八年サイラス位に即く。王死して子カムビセス嗣ぎ立
 つ。カムビセス埃及を征して之を取る。埃及征伐の際波斯に
 内亂起る。王歸國の途に死せ。ダライアスなる者内亂に乗じ
 て王位に即く。時に紀元前五百二十一年なり。此王の時に波
 斯と希臘との間に戦争起る。其事希臘史中に詳なり。サイラ
 スは創業の君ダライアスは守成の君なり。

文化

波斯の語はゼントと云ふ。波斯の宗教道德の大家は「ゾロ
 ースター」と云ふ人なり。此人の編輯せる經典はゼントアペ
 スターなり。詩仙は「フアーツーシー」なり。此人の詩集を「ヤ
 ーナメー」と云ふ。波斯人は初め一神を拜し後に陰陽の兩儀を

拜し又後に火を拜せり。

第二篇 希臘の部

第一章 總論

國風

希臘は羅馬と共に白人種の秀英なり。希臘は文物の精巧なるを以て名あり、羅馬は功業の宏大なるを以て稱せらる。然るに二國共有の名譽は民權の發達したる事是なり。

名稱

希臘の實名は *Hellas* なり。希臘人自稱して *Hellenes* と云へり。希臘と云ふ名は元來ヘルラス北西部の一小地の名なり。に羅馬人の以て全國の總名とせし者なり。

廣袤

希臘本部は一小半島にして其廣袤南北二百五十英里東西一百八十里なり。其地勢自然三分して北部中部南部となる。北部に二州あり、中部に十一州あり、南部に七州あり。

群島

希臘群島大小其數を知らず、希臘本部に接して最大なる者はユピア島、クリート島なり。ユピア島は延長一百英里、クリート島は一百五十英里なり。

希臘殖民地の最重要なるは小亞細亞西濱にあり。之に次ぎて重要なるはスレス並にマセドンの海濱、シリ島、伊太利亞南部、亞非理伽北濱に在り。極東の殖民地はエクスン海（今日の黒海）に沿へり。極西の殖民地は地中海濱のマルセイユ（佛國の南濱に在り今はマルセイユ港と云ふ）なり。

希臘の地形異常なるは其の特に山嶺江灣に富み以て要害無双、海運至便、風土區々なる事是なり。要害無双なるが故に小國割據相峙も、海運至便なるが故に異域の交通早く開けり。風土區々なるが故に人民の思想活潑敏捷にし志向千

殖民

地勢

差萬別なり。

又希臘は絶景勝地に富み蒼穹晴開、氣候和融なり。故に人民の容姿美麗、体格強康なるは古今例なし。是れ希臘美術の絶巧無比なる所以なり。又希臘の島嶼殖民地は其風土絶好なるを以て本國文明に關する事莫大なり。

景色

人種

希臘太古の住民はペラスギートと云ふ白色人種の一部なり。此舊民は希臘人に覆敗せられて其跡を絶ちたり。希臘人に四大種屬あり。ドリアン、イオリアン、アキアン、イオニアン是なり。四種屬中ドリアン、イオニアンを以て重要とす。ドリアンは希臘南部に住し武を尙む。Sparta府之が長たり。アイオニアンは中部に住し文を尙む。Athens府之が長たり。希臘史は畢竟兩府争覇の記事なり。

抑も希臘人は開化をなすに源を埃及フェニシアバビロニアに汲め共唯外國の文物を舶來せしむるには非ず能く之を改造して國俗に適せしめたり。

第二章 正史前の事變

希臘正史の紀元は耶蘇紀元前七百七十六年なり正史を三分して第一、第二、第三時代とす第一は正史紀元より波斯戰爭發端(自五七〇〇至五〇〇)に至る第二は波斯戰爭發端よりマセドン國王フェリッポの希臘伐克(自三五〇八至三三八)に至る第三はフェリッポの希臘伐克より羅馬人の希臘伐克(自一四三六至一三三八)に至る。

正史前の事にして重要なる者はドリアン人種の移轉並に小亞細亞の殖民なり耶蘇紀元前一千一百年頃此人種其本居希臘北部より轉遷し陸路にてヘルレスポンドの東南

正史發端
年限

ドリアン
人種の移
住並に其
影響

よ入る。土民アキアン人種其北西海濱に逃げ土民アイオニアン人種を逐ふ。アイオニアン人種希臘中部に逃ぐ。此時擾亂を避けて小亞細亞に移住する者多し。是れ小亞細亞殖民の緣由なり。殖民次第に繁茂して三大區を爲す。イオリアンアイオニアンドリアン殖民地是なり。本國と殖民地との間に通商大に興り豪富者輩出して門閥名家を壓も。因て希臘諸國政体を一變も。王政廢れて共和となる。獨りスバルタは此例に非らず。尤も其王は有名無實なり。

第三章 スバルタ

スバルタハ尙武無文の國なりヘルボン子サス半島に覇たり。貴族政治を其主義として毎に他國の貴族黨に加勢す。時或ハ半島外に出て干涉す。

建國

正史前の事變

人種

此國の民ハドリアン人種なり。初めドリアン人種ヘルポ
ン子サスに侵入志遂に三國を立つ。則アーゴスメゼニアヲ
コニア是なり。ラコニアの都をスパルタと云ふ。スパルタ人
勁悍無雙にして遂にヘルボンネサス半島に覇たり又耶蘇
紀元前六世紀に至り覇權を半島の外に及ぼさんと謀れり。
スパルタ都民に三種あり。一に士族、二に平民、三に奴隸な
り。士族はドリアン人種なり。平民奴隸は同じくアキアン人
種なり。平民は早くドリアン人種に降服せし者、奴隸は必死
抵抗せし者なり。政權と土地とハ士族の專有なり。士族總數
(ライカルガスの時九千人と云ふ)平民奴隸の合數に比するに一と十との割
なりと云ふ。

ライカル
ガス法典

ライカルガスの法能く此主一從十の不敵失均を補へり。

此法は主として勁健武幹の人を養生す。此法ハ其精神共產
主義にして一國の童兒婦女財物土地を擧げて公有とす。小
兒生れて不具虚弱なれば之を殺す。男兒七才及べば其家
を辭し官撰教員に就き武事を習ふ。而して六十歳に至る迄
軍務に服事す。女兒亦體育を怠たらざらば。壯夫其配を求むるに
至秘なるを要す。又初一二年は夜中ならざれば之に邂逅す
るを得ず。因て其間夫妻其面を相識らざらば。

ライカルガス質素廉直の風を生ぜんとして、士族を要し
貴賤老少を問はず皆公堂に會し飲食を同くせしめ、金銀貨
を廢し鐵錢を造り財貨の運搬貯藏に不便ならしむ。又商工
技藝を嚴禁し以て奢侈の途を絶てり。

政体

スパルタの政体は異常なり。王二人あり。一人は軍務を司

スパルタ

り、一人は祭事を司る。元老院あり。國會あり。政柄を執る者はイホル官と云ふ。其數五人なり。

スパルタ人の能く其國を維持し且他國に覇たりしは是れ實にライカルガス法典の賜なり。然るに此法典は親子夫婦の恩愛を絶ち知識發達の途を塞ぎ獨立自爲の心を抑せり。

第四章 雅典

國風

雅典は文事民權の國なり。雅典人ハアイオニア人種の秀なり。共和政治を其主義として毎に他國の共和黨を援く。

政變

正史前に王政を承廢して共和政治を立つ。執政官一人を置く。アルコンと云ふ。終身官にして王族を以て之に充つ。後に至り十年を以て期と爲し貴族を以て之に充つ。又其後増

成文律

員して九人とし減期して一年とす。元老院あり。アリオヘガスと云ふ。特に貴族を以て院員を充つ。衆民全く政務に預かるを得ず。故に貴族愈富強にして衆民愈困弊す。

ソロン改革

ソロン成文律を起草す。紀元前六百二十四年の事なり。衆民尙ほ安堵せず。五百九十四年執政ソロン新法を施す。

雅典に從來三民あり。一に貴族、二に農、三に工商なり。獨り貴族文武の官に任じ祭事を司るを得。ソロン三民を廢し四民を置く。門閥に據らず財産に據り等級を立つ。國會を置く。之をして新法可否、執政撰擧、大罪判決等を司らしむ。四民二十歳以上の者皆此會に臨むを得。元老院を置く。國會議事の立案を司る。院員四百人なり。一等二等三等の民を以て之より

充つ。高等院を置く教化の監督、執政官の彈劾、國會議決の修正、破棄を司らしむ。嘗て執政職に在りし者を以て其員に充つ。此に由て之を觀るに衆民は今參政の名有るも其實政柄は尙ほ豪富者の握る所なり。

ソロン滅債の令を發し貧民を救ひ新法を施し衆庶に參政の權を與ふ。此よりして貴賤和睦し國勢日に強し。

然るに尙ほ都民中に不平を懷く者あり。五百六十年ピシストラタス此輩に依りて政府を覆し身自らタイラントと稱す。タイラントとは國政を篡し專權を有する者の總稱なり。然るにソロンの法を存し文學技藝を獎勵し爲政至て穩當なり。其子ピピヤス初め施政父に類せしも後遂に壓制を以て人心を失し難を避くる爲め他國へ出奔せり。

ピシスト
ラタス

クリスジ
ニス

五百十年豪富者クリスジニス亂に因て國政を得。大に民權を張る。衆民に元老院に入るを許す。執政官新任には投票を廢して抽籤を用う。二政黨の長に於て議論相合はされば衆民投票を以て其一人を放逐する制度を立たり。之をオストラシズムと云ふ。此時に於てや民權成る。隨て愛國の心起る。因て雅典は希臘中部に霸たるを得たり。

時に貴族其失權を憤りスパルタの兵に援りて復權を圖る。然るに戦利有らず。因てスパルタ人ピピヤスを勸め波斯に行き師を請はしむ。是れ波斯侵寇の張本なり。

第五章 一 波斯侵寇

波斯は吞噬兼併の國なり。希臘は早晚其侵寇を受く可きなり。サイラス大王の時小亞細亞の希臘殖民地皆波斯領と

なる。ダライアス大王の時未だ其版圖に入らざるは獨り歐洲のみ。當時歐洲中希臘を良國とす。ダライアス希臘を取らんとして先づスレーシ、ヤを征す。希臘殖民兵船を以て從征して大功あり。殖民地中アイオニア最も自由を愛す。紀元前五百年アイオニア其兵力に富めるを知り遂に波斯に反す。雅典人兵船二十隻を出し之を援く。然るに事遂に成ら

第一征伐

ダライアス大に雅典のアイオニア亂に與かりしを怒る。四百九十二年第一征軍を起す。海陸並進みて北方より希臘を攻めんとす。然るに海軍途にして大に颶風に破らる。因て陸軍亦引き還る。

第二征伐

四百九十年第二征軍を興す。戰士十万人大艦六百隻。イジ

アン海を横航す。マラソン港に戦ふ。雅典北東十五英里なり。雅典名將ミルチアデス一萬の小軍を率ゐ大に波斯軍を破ぶる。

此に於てミルチアデスの功名一時世に轟く。然るに後ミルチアデス罪あり獄に死す。名望家としてミルチアデスに代り事を執る者二人あり。アリストタイチースとキス。セミストクリイスト云ふ。セミストクリイース善く奇計を出し國難を救ふ。波斯復寇を預知し防禦は海軍に依らざるを得ざるを主張す。アリストタイチースは之に反し舊來の陸軍に依るを固執す。乃アリストタイチースオストラシズム法に據りて逐放せらる。

時に波斯將は復た希臘を征せんとす。希臘諸國能く協心

同力するに非ざれば之に敵對するを得ず。然るに波斯の威を假り己の私利を謀る者多し。又防禦は民力を要し民戦ひて勝たば則民其權を増ざるを得む。故に貴族黨皆戰爭を願はず。故に主戰の國至つて少し。主戰諸國はコリンスに會し防禦を議す。セミストクリイヌ雅典人を勸めてスパルタに盟主の權を譲らしむ。

四百八十年波斯國王ゼルキゼス第三征軍を興む。王親しく之に將たり。戰士水夫共に二百五十萬人、大艦千二百艘へルレスポンド海峡を渡りスレースマセトンを通り北より希臘に入る。向ふ所敵無く遂に熱泉關に至る。スパルタの將レオニダス纔かに壹千人を率ゐ之を守る。波斯軍關を争ふ二日間、三日に至り間道より關後に出づ。守關の兵胸背敵を

受け鎗折れ箭盡き身斃れて止む。

熱泉關失守の報雅典府に達す。府民戰鬥に任ふる者兵船に乗り老若女子は近島隣國に逃ぐ。波斯軍空府に入り之を焼く。

希臘軍艦三百六十六艘サラミス灣に集居す。其内二百艘は雅典軍艦なり。波斯軍艦一千艘なり。希臘諸將多くは戰かはずしてコリンス地塊に退かんとす。獨セミストクリイヌ戰を主とす。奇計を出し波斯人を勸めて希臘軍艦を襲撃せしむ。故に希臘諸將已むを得ず止まり戰ふ。波斯人大敗し軍艦二百有餘艘を失ふ。波斯王周章狼狽陸兵三十萬を委し身自から本國と直指し逃奔す。

翌年即四百七十九年九月廿五日波斯遺兵大に希臘人に

プラチアに於て敗らる。又同日波斯殘艦全く小亞細亞のマイケリーに於て毀たる。前後三大勝利は波斯戦局を終結す。此に於てや希臘本國の獨立希臘殖民の自由並び得らる。波斯人失敗に必然の理四あり。一、自由愛國の民に對するに壓制卑屈の民を以て。二、賄賂離間の策を用おずして専ら兵力に依る。三、持久を計らざして急撃を事とす。四、神社靈場を毀焼し住民の怨惡を増す。

第六章 雅典全盛

波斯戦争後セミストクリスアリスタイチース雅典の政事を執る。然るに當時スバルタの將帥皆其任に適せず。故にスバルタの勢力能く雅典の右に出る能はざ。又雅典ハ沿海海中の諸國と共に軍艦を出し海防同盟を作す。雅典は其盟

全盛の源
因

主アリスタイチース其監督なり。時にアリスタイチースの發議に由り下等人民亦執政官になるを得たり。

雅典の遂に全盛を致し、は俊傑ペリクリスの力なり。海防同盟諸國に令して船舶を出さざして代金を出さしめ又其金庫を雅典に移し其釀金を雅典府の裝飾に供す。因て同盟諸國ハ雅典の屬國なるが如し。

ペリクリスは雅典人をして政治上智識上風儀上天下一等の人種とせ。執政官並に大將の判決權を剥ぎ之を衆民に歸せ於是や政權衆民に歸せ。衆民の兵役に服する者審判を聽く者皆日當を給す。又衆民に費用を給し之をして演戯場に臨ましむ。當時演戯の効用今時の政事新聞紙に等し。大に土木を興し美術を奨勵す。然るにペリクリスは智略を以て

雅典の景
况

一世を籠絡せりと雖制度を定め之を後世に貽さず。因て其死後衆民政を爲し一決するを知らず。是れペリクリスの過失にして雅典急滅の原因なり。

第七章 内亂(ペロポネシアン戦争)

源因

希臘内亂に原因三あり。一に民権主義と貴族主義との兩立すべからざる事。二にスパルタは雅典全盛を嫉み雅典は其同盟諸國の意を失ひたる事。三に雅典のコリンス國と其殖民地コキラとの争に干渉したる事。スパルタ並に其同盟は陸軍を率ゐ雅典並に其同盟は海軍を率ゆ。戦争年間は一十七年(四〇三—四〇一)にして三期あり。一期に十年戦争あり。此時兩軍互に勝敗あり。雅典府城に大疫起る。ペリクリス亦疫に罹り死む。四百二十一年ニシアスの周旋に因り五十年の休戦

十年戦争

シシリ
島征伐

デシリヤ
ン戦争

雅典府降

結果

を約す。二期にシ、リ、島の征伐あり。雅典の小年アルシピアチス之を發議し舉國之を贊す。獨りニシアスソクラテス二人之を拒む。四百十五年アルシピアチス海軍を盡し征島せ。アルシピアチス嫌疑あり途上に於て歸國辨罪の官命を受く。歸國せむくてスパルタに逃奔す。雅典征軍大敗を取り戦艦殆ど盡く。三期にデシリヤン戦争あり。スパルタ人アルシピアチスの怨國心と波斯の賄賂金とに由て之を起す。四百〇五年雅典軍艦羊河に崩潰す。翌年雅典府城降る。城平げられ港毀たれ艦數僅かに十二艘を存す。

ペロポネシアン戦争は希臘自滅の張本なり。雅典屢敗れし爲め其勢力を失ひスパルタは波斯賄賂金の爲め貪婪の心を生ず。文藝理學の尙ほ盛に雅典に行はるれ共皆當世

希臘 内亂

救済の益なし。

第八章 スバルタの暴逆

ペロポネチアン戦争後スバルタは希臘本部並に諸殖民地に覇たり。且波斯を侵す。抑も其のペロポネチアン戦争を起し、や雅典の壓制を除き希臘全土の自由を復するに名を假りしと雖戦後に至り雅典に代り自から壓制を事とし、其將校を諸國に遣はし之が守とす。特に雅典は三十將を置く。雅典府民之を惡みて三十虐主と云へり。

四百〇三年雅典反し三十虐主を逐ふ。三百九十二年コリンス戦争起る。波斯スバルタの勢力を惡みコリンス雅典シーブス等に命じ之を撃たしむ。相戦ふ事六閱年にして平和を許す。亞細亞の希臘殖民地皆波斯の有となる。

スバルタの暴逆

コリンス戦争

シーブス戦争

三百八十二年スバルタ人は無法にシーブスの府城を取る。三百七十九年シーブス反す。二傑ヘロピダスエバミノンダス其先導にてスバルタの權勢を挫きシーブスをして雅典と並立するを得せしむ。

三百六十二年エバミノンダス戦死してシーブスの勢復振はず。然るに其後シーブスは雅典と共に永く希臘獨立の保護者たり。此より後希臘人皆武勇智謀に匱しくて愛國敬神を怠れ趨利貪財是れ務む。故に諸國相合て外寇に備ふる能はず。マセドン王ヒリッポ曰く希臘諸國の城壁皆低くして負財の驢能く之を越ゆ。此言善く當時の人情を穿ちたる者と云ふ可し。

第九章 マセドン王國

希臘 スバルタの暴逆。マセドン王國

マセドンの國柄

ヒリップの性質

第一神事戦争

マセドン人は希臘人に隣接して同人種なれ共國王ヒリップ即位前未だ嘗て之と同國人となるを得ざりき。エバミノンダス死後二年王ヒリップ即位も王爲人志望大にして才略あり其民勁武能く戦ふ。王少にしてシーブスに質たり而して希臘の状況を熟知す。時に希臘諸國の不和其極に達す。王之に乗じて併吞を謀る。能く其秘謀を豫知せる者は雅典の辨士デモスゼニス一人ある而已。

三百五十五年第一神事戦争起る。フシス人デルヒーのアボルロー神社附屬地を取りて之を耕む。アンフクシヨン教會之に罰金を課す。フシス人罪に服せず。反て神社の財寶を竊む。教會ヒリップ王を引きて其援とす。是に於てマセドン遂に希臘群國の數に入る。(アンフクシヨン教會ハ希臘諸國ノ相合テ立つる所ナリ)

第二神事戦争

ヒリップの死

歴山大王即位

三百三十九年第二神事戦争起る。ロクリス人デルヒーの神地を取り之を耕す。於此ヒリップ假面を脱し希臘を撃つ。デモスゼニス雅典人シーブス人を合して之に抗む。三百三十八年ヒリップケロニヤに戦ひ大に勝つ。於是希臘永く獨立を失ふ。ヒリップ王の希臘に克つ其理二あり。一にハラシク軍陣を設る事。二に賄を行ひ敵を離間する事。

ヒリップ王既に希臘を定め而して波斯征伐を宣言す。征伐の名義は昔日波斯人の希臘諸神を汚穢せしを罰するに在り。然るに王は其臣に暗殺されて征伐を果さむ。乃太子歴山其位と謀とを嗣ぐ。

三百三十六年歴山大王即位す。時に年二十歳なり。翌年希臘其若年を侮り謀反す。大王輒ち之を鎮定す。

希臘 マセドン王國

征伐

大王死

三百三十四年大王自から希臘大將軍と稱し波斯を征す。二年間に小亞細亞全部を服す。三百三十二年シリアフェニシア埃及等を服す。三百三十一年波斯を亡す。三百二十七年印土を征す。三百二十三年巴比倫府に死す。年三十三歳なり。

歴山大王死せる時王子皆幼弱諸將互に地を争ふ。因て天下分裂して數國と爲る。大國三あり。マゼドン、波斯、埃及是なり。小國三あり。アトロピ子國、ガレチア國、バルガマス國是なり。同盟三あり。イオリア同盟、アキア同盟、商業同盟是なり。

歴山大王夭折して其封疆四分五裂したれ共其功業は高貴にして永く後世に影響す。大王は希臘の文化と東國の富資とを混化して一種の開化を生ずるを計れり。

大王の遺業

大王夭折封疆分裂せりと雖其計畫永續するを得たり。希臘の言語風俗は東方諸國上流社會の言語風俗となり希臘人種は東方の富資に藉り大に其口數を増せり。是よりして世に二種の開化有て並行す。一は羅馬開化、二は希臘開化即ち歴山所計の開化也。特に羅馬帝國兩分後東方は希臘開化を主とし。西方は羅馬開化を主とす。當今歐洲に於ては希臘國尙ほ歴山所計の開化に依り。自餘諸國は羅馬開化に依る。

第十章 希臘開化

希臘開化ハ事物の新造と絶巧とを以て著し。制度文物或ハ埃及非尼細亞巴比倫より汲源したる者ありと雖希臘人は皆之に改良を加へ國俗に適せしめたり。

希臘は民政初發の國なり。民政とは民の爲めに立て民の共有し民の參預する政體を云ふ。民政は專制王政の反對な

源因

政治

希臘開化

宗教

り。専制王政は民をして其性に隨て其知識を増進せしめず。民政は之に反し知識の進歩を自由ならしむ。故に希臘の文學技藝皆其巧妙を致せり。

希臘の宗教は多神教にして其宗旨は高尚深遠ならざれども殘忍野鄙ならず。ホーマーヘシオド二詩仙の美談を藉りて之を潤色す。故に諸神形質人間に類し國人以て親友視して愛敬も。又宗教は技工詩人の摸型を取り思想を藉る無盡藏にして美術文事を獎勵する事大なり。如是く希臘の宗教は理論に乏しく根據無ければ啻哲學の進歩を妨げざる而已ならず又其爲めに敗らるゝに至れり。

希臘人は神等を分ちて大小とぞ。大神の數は十二、小神は無數なり。十二大神の所掌次の如し。

- 一、神祖、則天主。
- 二、海主、地震を司どる。
- 三、日神、音樂を司る。美男の摸型。
- 四、月神、牧獵を司る。
- 五、火神、鍛冶を司る。
- 六、使神、辨口商業を司る。
- 七、軍神。
- 八、天后 (天主の后) 嫉妬を事とす。
- 九、智神 (女)
- 十、竈神 (女)
- 十一、農神 (女)
- 十二、戀神 (女) 美女の摸型。

希臘 開化

希臘宗教の活氣は神託に在り。國俗神託を尊敬し一個人上の事は勿論國家の大計も之に依りて決定す。

希臘國祭は國俗奇觀の一なり。祭禮の要觀は競技なり。歩騎、車、音樂、詩作の競技に勝ちたる者は賞品として橄欖、月桂等の冠を得。此祭禮は商業交際文事を獎勵する少からむ。何と云ふに商人は遠國異域の貨物を交換し、本國人、殖民、藩屬會同して異風殊俗を對照し可し。學者は衆中に於て當時流行の論說を是非し。詩人史家は其所著を朗讀し、技工は相競て其作を縦覽に供す。如此會同交際は國民をして相隣み相親む情を懐かしめり。

希臘には詩先づ起りて文之に次げり。詩に四種あり。一に叙事的の詩。二に述感的の詩。三に奏樂的の詩。四に演戲的の

車、音、詩、文、祭、禮、奇、觀、一、なり、祭、禮、の、要、觀、は、競、技、な、り、歩、騎、車、音、樂、詩、作、の、競、技、に、勝、ち、た、る、者、は、賞、品、と、し、て、橄、欖、月、桂、等、の、冠、を、得、此、祭、禮、は、商、業、交、際、文、事、を、獎、勵、す、る、少、か、ら、む、何、と、云、ふ、に、商、人、は、遠、國、異、域、の、貨、物、を、交、換、し、本、國、人、殖、民、藩、屬、會、同、し、て、異、風、殊、俗、を、對、照、し、可、し、學、者、は、衆、中、に、於、て、當、時、流、行、の、論、說、を、是、非、し、詩、人、史、家、は、其、所、著、を、朗、讀、し、技、工、は、相、競、て、其、作、を、縦、覽、に、供、す、如、此、會、同、交、際、は、國、民、を、し、て、相、隣、み、相、親、む、情、を、懐、か、し、め、り、

文學

詩なり。叙事的の詩は豪傑の功業、戦争の景況を記せし者にして王政時代に流行せり。民權漸く進み、衆民政事を執るに至り、述感的の詩起れり。後音樂に合する詩起る。ペリクリスの時に至り、希臘文藝の精粹即ち演戲的の詩起る。此詩に二種あり。悲嘆的の詩、滑稽的の詩是なり。時に雅典全盛にして詩作卓絶なり。毎春詩作の競争會あり。執政官臨會管理して優者に賞品を與ふ。

文體に二種あり。史文、辯舌是なり。ヘロドタスハ史家の祖先にして波斯戦争を記るす。スシヂチスハ史論家の祖先にしてヘロポンテサス戦争を記るす。希臘の文ハ辯舌に至り其体を完ふせり。デモスゼニスハ無双の辯家なり。能く三寸の舌を以ヒリップ王の軍畧を敗ぶれり。

希臘 開化

代	時		二
三四〇年頃生	歴山大王の時代	三二三年死 三八四年生	四二九年生 三四七年死
ゼノ	ダイナゼニース	歴山大王の師 演繹學法の始祖 アリストートル	プラトウ
		一、中は正直、庸は徳體なり。 二、萬物の本は四にして形状、性質、運活、終歸、是なり。 三、精神の當理活動は無上の善なり。	一、思想は萬物の本なり。 二、共產社會は無上の良社會なり。 三、神に似るは無上の善なり。
		一、天下を擧て皆同胞なり。 二、制度文物は民を賦する具なり。 二、徳は無上の善なり。	二、學問の初歩は反省自知と是なり。

三四二年生 二七〇年死	イピキユラス	一、徳は遍く心體の能力を發育する事なり。 二、徳は無上の善なり。
----------------	--------	-------------------------------------

此書は、ストア時代の哲学者イピキユラスの著作である。

明治二十年十二月廿二日板權免許
 同 二十一年三月二日印刷
 同 三月七日出板

定價金貳拾錢

編輯兼發行 人 辰 己 小次郎

東京府士族 東京淺草區北三筋町
 六番

印刷人 東京府平民 竹二郎
 山口 東京々橋區八官町
 十番

發賣處 岡商 東京神田區南乘物町
 三番

廣告

●理學士實吉益美先生編纂
 ●平算教科書 上卷

定價金七拾五錢 郵稅貳拾錢 下卷近刻
 目錄 整數 數ノ性質 分數 小數 諸等
 從來の算術書は理論を後にし徒に難問を排

列し機械的に解算するを主とす故に時に問
 題に附するに術日云々を以てし如此せば即
 ち答を得ると記し何故に術に從へば答を得
 るやの道理を説かざるは所謂難問と云ふ
 ものも高等數學に在ては容易なるものあり
 初學者にして徒に之が爲に時日を費すは愚

の至りと云ふべし森文部大臣の演説にも難問を以て學生を困しめ以て數學を教授するとなすの非を論じられたり西洋諸州に於ても近代數學教授法は大に面目を改めたるなり獨り我國古風の書を用ゐる古風の教授法を墨守し以て満足すべけんや是れ此書の出版ある所以なり

●第一第二第三高等中學校十有餘尋常中學校十有七公立學校教科書
山本廉先生輯 龜谷行先生閱

●**史記傳抄** 全三冊既發

本書要點●史記列傳中より佳傳を抄録する只其最も簡短讀易き者を選び●其卷數の普通科に在りて一學年の課程に供するを期し●訓點傍註を附せず蓋し其讀下の際偏へに訓點傍註に依頼せず専ら教師の說明を待たしむ●句讀を正し評林其他二三の書と大に異なる處あり●古人評語の簡約文章に關係あるものを主として掲げ讀者をして先づ其文理を釋ね大意の存する處を了せしむ●史記元來異同多し由て諸本の異同を欄外へ掲ぐ●第一高等中學校教諭井上十吉先生著

●**英和尺牘書法** 全一冊

定價金二拾五錢郵税金八錢

●(學藝の世界評)この書は初學者が英文の尺牘を作習するの良指南なり一卷六十二片紙四章に分ち短語より短句に入り書體より書體に進み深切叮嚀其手を引きて作文の門戸に入らしむるが如し殊に喜ぶべきは短語即ち乍し憚、無、據、不本意等の文字を掲げ其用法即ち之を一句組立るの方法を示し次に其句を連接して一文章を完全するまでの心得となるべき件々を次第に説示し初學者をして易より難に入り容易に尺牘文を作り得るの便利を與へられたることなり此書は英文に盲なる者をして眼を開き明を得せしむるの功徳あるものとも評すへきか歟

横文學生學術雜誌及英文小説集發賣仕候
外國御注文書籍新聞類ハ御注文次第可成至
急御間ニ合セ申候
米國バルン商會出版書籍ニウナシヨナルリ
Iドル其他悉皆賣捌申候
和漢洋書籍内外新聞雜誌學校諸機械賣捌所
東京神田今川橋側

學校用白墨賣捌所
吉岡商店

の至りと云ふべし森文部大臣の演説にも難問を以て學生を困しめ以て數學を教授するとなすの非を論じられたり西洋諸州に於ても近代數學教授法は大に面目を改めたるなり獨り我國古風の書を用ゐ古風の教授法を墨守し以て満足すべけんや是れ此書の出版ある所以なり

●第一第二第三高等中學校十有餘尋常中學校十有七公私立學校教科書
山本廉先生輯 龜谷行先生閱

●**評纂 史記傳抄** 全三冊既發

定價金六拾錢 郵稅二十四錢
本書要點 ● 史記列傳中より佳傳を抄録する
只其最も簡短讀易き者を選び ● 其卷數の普通科に在て一學年の課程に供するを期し ● 訓點傍註を附せず蓋し其讀下の際偏へに訓點傍註に依頼せず専ら教師の説明を待たしむ ● 句讀を正し評林其他二三の書と大に異なる處あり ● 古人評語の簡約文章に關係あるものを主として掲げ讀者をして先づ其文理を釋ね大意の存する處を了せしむ ● 史記元來異同多し由て諸本の異同を欄外へ掲ぐ ● 第一高等中學校教諭井上十吉先生著

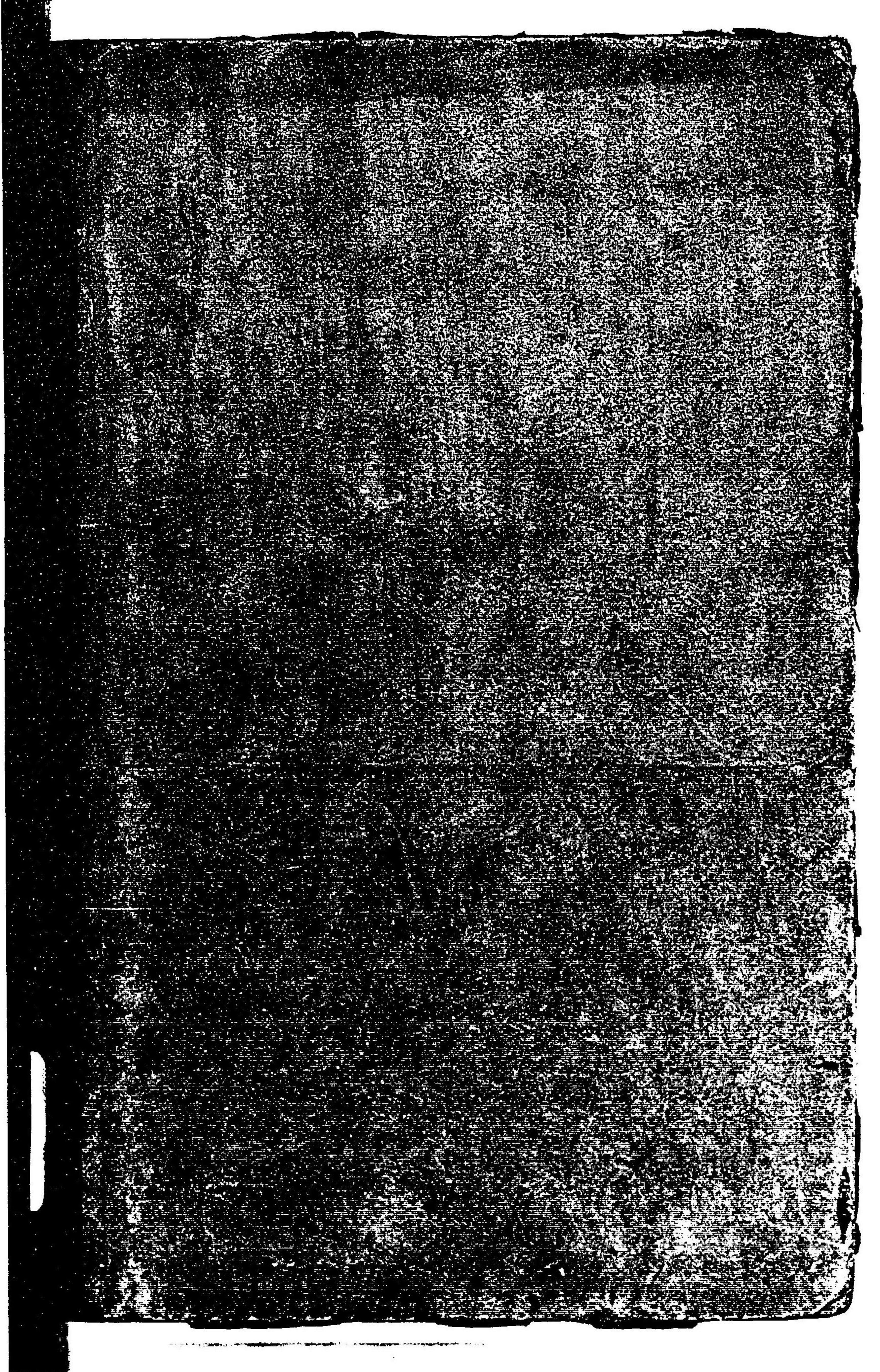
●**英和尺牘書法** 全一冊
定價金二拾五錢郵稅金八錢

●(學藝の世界評) この書は初學者が英文の尺牘を作習するの良指南車なり一巻六十二片紙四章に分ち短語より短句に入り書體より書體に進み深切叮嚀其手を引きて作文の門戸に入らしむるが如し殊に喜ぶべきは短語即ち乍し憚、無、不本意等の文字を掲げ其用法即ち之を一句組立るの方法を示し次に其句を連接して一文章を完全するまでの心得となるべき件々を次第に説示し初學者をして易より難に入り容易に尺牘文を作り得るの便利を與へられたることなり此書は英文に盲なる者をして眼を開き明を得せしむるの功德あるものとも評すへきか歟

横文學生學術雜誌及英文小説集發賣仕候
外國御注文書籍新聞類ハ御注文次第可成至急御問ニ合セ申候
米國バルン商會出版書籍ニウナシヨナルリ
Iドル其他悉皆賣捌申候
和漢洋書籍内外新聞雜誌學校諸機械賣捌所
東京神田今川橋側

學校用白墨賣捌所 **吉岡商店**

31
2
61



000190-001-8

特20-146

万国小史 卷1, 2

辰巳 小次郎/著

1册(57)

M21

ACA-0303



特
1